

# 令和3年度 第2回富田林市金剛地区再生指針推進協議会 会議録

富田林市 産業まちづくり部 金剛地区再生室

日 時： 令和4年2月3日（木） 午後2時～午後3時50分

場 所： オンライン（ZOOM） ※視聴会場： 富田林市役所 3階 庁議室

出席者：【委 員】： 出席者14名

増田 昇（会長）、中井 二郎（副会長）、友田 研也、溝口 俊則、吉村 明、  
小野 達也、野村 恭子、廣崎 祥子、馬來 秀樹、大塚 英生、木全 剛司、  
高橋 大河、三崎 信頭、森木 和幸

欠席者3名

山田 泰弘、中西 光司、佐々木 直樹

【事務局】： 4名

〔富田林市 産業まちづくり部 金剛地区再生室〕

塚本 隆之（室長）、坂口 公一（参事）、松本 憲昌（室長代理）、  
加茂 武（副主任）

【会長が認める関係者（設置要綱第5条第4項）】： 6名

〔大阪府スマートシティ戦略部〕 大平 幸一

〔株式会社ダン計画研究所〕 上岡 文子、松下 玲加

〔三井住友海上火災保険株式会社〕 渡部 譲、中田 眞由美

〔特定非営利活動法人きんきうえぶ〕 寺田 誠（コンサルタント）

開催形態： 公開（傍聴人：0名）

会議次第： 1. 開会

2. 案件

（1）金剛地区再生指針に基づく取組について（令和3年度）

（2）金剛地区施設等再整備基本構想について

（3）その他

3. その他

4. 閉会

会議録： 全文筆記

## 1. 開会

(事務局：坂口)

- ・設置要綱第5条第2項により協議会が成立していることの報告
- ・議事進行にかかる留意事項等の確認
- ・資料の確認

(吉村市長 あいさつ)

皆様こんにちは。いつも大変お世話になりありがとうございます。富田林市長の吉村善美でございます。今日は令和3年度の第2回、富田林市金剛地区再生指針推進協議会の開会にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げたいと思います。

委員の皆様方におかれましては、日頃から金剛地区の再生、そして活性化に様々なお立場からご尽力を賜りまして、また本日は、ご多忙の中にもかかわりもせず、当協議会にご参集いただきましたこと、心より厚く御礼申し上げます。

さて、私自身が市長に当選をしてから、公約として金剛地区の新たなまちづくりを進めまして、早3年が経過しようとしております。この間ですね、地区再生の専任部署として、金剛地区再生室を設置させていただきますとともに、昨年には、本日ご出席のUR都市機構様との連携のもとに、魅力向上拠点「∞KON ROOM」の共同設置、同じくUR都市機構様との包括連携協定の締結、さらには、金剛連絡所の2階に、地域包括支援センター、自立相談支援機関、福祉なんでも相談窓口を併設した相談窓口の開設等に取り組んで参りました。

また本日の協議会の中でも議題とさせていただく予定ですが、金剛地区の老朽化した施設等の再整備や、都市空間の再編等による都市機能の高度化等に向けました、「金剛地区施設等再整備基本構想」の策定にも取り組んでおります。

これからも地区住民の皆様や関係ステークホルダーの皆様にご協力を賜りながら、金剛地区再生指針、施設等再整備の推進に粉骨砕身取り組んでいく所存でございますので、何卒よろしくお願いを申し上げます。

そして、本日の協議会におきましては、活発なご議論を賜りますよう重ねてお願いを申し上げます。私の挨拶とさせていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

## 2. 議事

(増田会長)

はい、皆さんあらためましてこんにちは。本日の会議、よろしくお願いいたしますと思います。特にオミクロンがもう10万人に届こうかというような状態で、やや不安な状態が続いておりますけれども、よろしくお願いいたしますと思います。

本日ですが、次第でございますように案件は3案件でございます。1番目は、金剛地区再生指針に基づく令和3年度を取組状況についてということで3点ございますので、両括弧の1の①から順次報告いただきながら意見交換をしたいと思いますので、まず初めに金剛地区まちづくり会議、各部会・プロジェクト等の取組について、ご報告をいただければと思います。

よろしくお願いいたしますと思います。

(1) 金剛地区再生指針に基づく取組について（令和3年度）

（事務局：坂口）（特定非営利活動法人きんきうえぶ：寺田）（友田委員）

・資料2①②について説明。

（増田会長）

はい、ありがとうございます。一度ここで少し質問なり、お気づきの点なりをお話いただければと思いますけれども、いかがでしょうか。

まず、活動報告としていただいたマルシェからわっく Café、総合まちづくり部会、防災訓練。これに関して何か補足なり、ご質問なり、ご意見ございますでしょうか、いかがでしょう。

はい、溝口さん手を挙げています。よろしくお願いします。

（溝口委員）

よろしいですか。

（増田会長）

はいどうぞ。

（溝口委員）

総合まちづくり部会の件、先ほど友田委員から説明がありました。ただ1点ですね、まず、総合まちづくり部会、或いはまちづくり会議（全体会）含めて、私はずっと主張してきたんですが、基本的に公共施設に対する公共事業と、こういうものを推進するという立場、これがちょっと抜け落ちてるっていう、最終的に官民連携というのが強調されておりますので、総合まちづくり部会とまちづくり会議の中で、必ずしも官民連携というのが最終的に強調されてるっていうことでもないというふうに思いますので、あくまでも公共施設に対する公共事業と、これを我々総合まちづくり部会が関わっていくと、こういうふうに考えておりますので、その点指摘しておきたいと思います。

（増田会長）

はい、他はいかがでしょう。はい、友田委員、手が挙がりましたね、はい。

（友田委員）

先ほどの金剛まちづくり会議のあり方も、今回意見言わせてもらってもいいですかね。

（増田会長）

はい。

（友田委員）

これについて今、金剛地区まちづくり会議の会議体と全体会っていう仕分けをされてるんですけ

ども、ここの意味がちょっとよく分からなくて、金剛地区まちづくり会議っていうのは、情報共有の場にしていきましょうと。そして市が、地域に対して色々報告するとか、意見を聞くとか、ワークショップをするような場にしていきましょうと。地域の者も、地域の者が色々提案することを聞いてもらう場所、そしてその意見を酌み取りながら、どういうプロジェクトにするのか検討していき、そして概ねの了解が得られたらそれで実施し仲間を募っていきましょうという場所で、新たな友達とか仲間とかを呼び込むときにここに来てくれて、色々聞いた上で参加を募っていきましょうと。そういうような場所で、実施するような組織体制とは思ってないですよ。

その実施する組織っていうのは、各々のプロジェクトチームになっていて、それで実施していき、そしてそれが総合まちづくり部会であったり、わっく Café になっていくという形で、あくまでも情報共有の場所で、それは行政にとっても情報共有ですし、我々にとっても情報共有ですし、そういう意味で物凄く重要な場所ではあるんですね。しかしながら、実施する場所とは思ってないので、その仕分けの意識がね、ちょっと違うんじゃないかなっていうのは、この資料を見たときに思いましたね。以上です。

(増田会長)

はい、いかがでしょう。まず資料の②ですね。まちづくり会議の運営についてという話ですけども、これ4ページ目を見ると、まちづくり会議というのと、全体会というのと、どちらも運営があって何か別物みたいに見えるんですね。別物ではないんですね。この辺の表現の仕方をきちんと考えないといけないと思うんですけどね。

それと、まちづくり会議、或いは全体会もそうですけど、そこが担い手ではなくて、そこは情報交換と、もう一つは行動の起点となるところで、行動が発生したら部会を形成していただいたり、プロジェクトとして運営していただくという、運営主体は、運営そのものは要するに部会とかプロジェクトでやるという、こういう認識、友田委員がおっしゃった、そういう認識だと思うんですけども、その辺の認識が、少しこれを見てもうちょっとうまく整理しておかないと、何か今までやってきたこととちょっと違うような構成のされ方をしてるので、そこは注意深く再確認いただいた方がいいかと思えますけれどもね。

(特定非営利活動法人きんきうえぶ：寺田)

はい、ありがとうございます。運営会議の中でもこの意見が前回のところから出ていたので、定義付けをちょっと区別し過ぎているので、ここのところの表現であったりとか内容については、皆さんと話し合いながら、おそらくこのまちづくり会議とはこういうプラットフォームですよ、全体会はこういう場ですよっていうのを、これまでずっと使っていたんですけど、あまりにもちょっと区別し過ぎているので、誤解を招くような形になってるのかなと思うので、そこはまた検討していきたいと思います。

(増田会長)

基本的にはまちづくり会議っていうのは全体なんですよ。全体のプラットフォームで、その中に具体的な動きとして、まちづくり会議の、要するに議題整理とかそんなことをする運営会議があ

れば、全員が一堂に顔を合わせて意見交換会をする全体会もあれば、部会もあれば、プロジェクトチームもあるという、それを総称としてまちづくり会議と呼んでいるというのが、要するに本来の姿だと思うんですね。その姿が、何かこれで、1まちづくり会議、2全体会になると、まちづくり会議そのものが何か一つの行動体みたいに見えるので、そうじゃないと思うんです。まちづくり会議っていうのは全体を包括している、組織というよりもプラットフォームということだと思うんです。どう言っているのか、ちょっと表現が難しいですけど。

中井委員いかがですか、手を挙げていただけてますけれども。

(中井副会長)

今会長がおっしゃったのは基本的な話で、その通りだと思ってるんです。私の認識も従来出来上がったときから関わっておりますけども、まちづくり会議イコールここで言う全体会なんですね、まちづくり会議という名前は使ってますけど、会議のときは全体会ということで今まで集まっていたと思います。全体会ではあまりに数が多いので、上手く回らないということで、実際の運営を回すために運営会議っていうのを新たにつくったと。色々なプロジェクトの実施主体は、部会があって、その部会が主体的に受入団体をつくったり、居場所の場合はわっく Café をつくったり、そういうことをやって実際の動きをつくってきたという、そういう流れだと思っております。

会長おっしゃった通りだと思うので、その辺少し検討していただいて、この1、2という分け方と、それも両方とも運営、運営と書いているので、これが多分全体会の2番目の方が運営じゃなくて位置付けとか活動内容とかなんかそんなことだと思うんですけど、その辺をちょっと変えればまだ整理できるのかなというふうに感じてます。以上です。

それともう一点、まちづくり会議の中に④っていうのがあって、団体との調整窓口と書いているんですけども、これはおそらくこういう役割そのものはまちづくり会議が担えないので、やるとすれば運営会議が受けて、提案していくという形になるのかなっていうことで、このまちづくり会議の運営の中で④を挙げるのはどうかなというふうに感じてます。以上です。

(増田会長)

これ多分ね、1番のまちづくり会議の運営という話じゃなしに、「まちづくり会議とは」というのが、全体としてまちづくり会議というのは、この1番から5番みたいなことをやっていますよと。具体的な活動の行動形態としては、運営会議という行動形態もあるし、全体会という行動形態もあるし、部会という行動形態もあるという、そんな認識だと思うんです。

だから、まちづくり会議の運営なんて書くからおかしくて、まちづくり会議というのは、こんな1番から5番ぐらいのことを目標にしたプラットフォームですよっていう、これはまちづくり会議の定義みたいなものだと思いますよ。或いは担う機能みたいな話だと思うんです。それを実現するために、全体会があったり、部会があったり、運営会議があったりするということだと思うんです。

だから、先ほど総合まちづくり部会が、やっぱり当初の理念を再確認しながら前に進めないで、当初の理念を忘れてしまいますみたいな発言が友田委員からありましたけど、一緒に、まちづくり会議っていうのを、常にどんな機能とか目標を持ったものなのかということを再確認しておくことだけだと思うんです。

あとは、運営体をどうやって具体的に動かしていくのかというのを、ちゃんとまちづくり会議というものについて、考えておかないといけないことだと思います。皆さんのご指摘はそんなことだと思うんです。

私の方から気になる点が2、3あって、一つは総合まちづくり部会から出て来ている推進協議会。これは、極端なことを言うと、ある意味部会の枠組みを超えた、非常に大きな組み方で、まちづくり推進協議会ということになったら、先ほど溝口委員からもあったように、公共空間である金剛中央公園、寺池公園、ふれあい大通り、ここをどう活かすのかではなくて、そこの再整備も含めて推進していきましょうみたいな話になってるので、この推進協議会が。

これ多分、あとで出て来る金剛地区施設等再整備基本構想、この中でこの推進協議会みたいなやつをどう位置付けていくのかというふうなことをきっちりと議論した方がいい題材ではないかなと、一つの部会というには余りにも大き過ぎるのではないかなと思ってるんですけどね。

友田委員いかがでしょうかね。

(友田委員)

そのとおりで、やはりそういった推進体制っていうものをつくっていかないといけないんですけども、今私が思っているのは、一度に大きいものはできないので、大きくは掲げつつも、まずは寺池でスタートしながら準備していくというような形で、とりあえずスタートしないとイケないかなと思ってまして、とりあえず今の形をつくった上で、寺池からスタートし、最終的には広げていく、大きくしていくっていうのがあって、そこまで目指したいですけども、まず立ち上げていこうと。

(増田会長)

そうですね、まずこのパワポでいうと10ページと、その次の12ページ、これよくわかるんですね。具体的な行動やってみましょうと。11ページの再生まちづくり推進協議会、これを立ち上げましょうというのは、先ほどもあったようにまだ国へ申請するのも時期尚早でみたいな話で、ここはまだもう少し議論の余地を残しとかないといけないのかなと思ってます。その辺、友田委員いかがでしょうかね。

(友田委員)

議論の余地は十分残してもいいんですけども、都市整備センターのお金なんかも要求していきたいので、それについては軽く小さな形でもスタートした協議会みたいなものをつくっていこうかなと思ってます。

(増田会長)

なるほど、その辺りは慎重にしてください。

(友田委員)

はい。

(増田会長)

本当の意味での名前から見たら、再生まちづくり推進協議会、しかも3つの公共空間を使ってということになると、その施設管理者である市とがっちりと手を組んで展開していかないと前に進まない話なので、単なる市が協力会員として入ってるようなレベルではないと思うので、その辺りのことは、少しこの整備構想もこの三つをベースに具体化していこうという話ですから、その辺りのところ、もう少しここは、まずは総合まちづくり部会で行動を起こしていくというのに対しては、非常によく分かるし、その行動もできたら、外部資金を獲得しながらというのもよく分かるんですけど、それをさらに広げたこの枠組みみたいなやつっていうのは、もう少し議論を深めた方がいいのかなと思いますけど。

(友田委員)

分かりました。市とまた相談させていただきます。

(増田会長)

他はいかがでしょう。この辺りで活動のところはよろしいでしょうか。

あとはもう1点、マルシェが非常に活性化してきてるので、できたらスペースも銀座街でやられてますので、その辺り銀座商店街が中心になって、継続的運営をやっていくみたいな話っていうのは、木全さんしんどいでしょうかね。どうでしょう。

(木全委員)

はい、すいません。そのお話を今ずっと伺ってて、どうしようかな、発言しようかなと今考えてたんですけど、資料をちょっと見てて、僕何度か坂口さんにもお尋ねしたことがあるんですけど、このマルシェについてのこの主催者ですよね、主催者っていうのが誰なのか、ここにも明確ではないって書いてありますし。

今回金剛バルと一緒に日に行ったんですけど、金剛バルの方には問い合わせ窓口がちゃんとありまして、そこにちゃんと連絡が来るんですね。いらっしゃった来場者からのお問い合わせとかがあるんですけど、その中で1点あったことが、坂口さんにもお話したんですけど、まず金剛バルと一緒にやってるので、全く違うものだという認識を持っておられる方が非常に少ないんですね。同じものだと思っておられるので。

だから、金剛バルの会場ではきちっと消毒作業であったりとか、大阪コロナ追跡システム、こういったことをきちっとなされてるのに、なぜマルシェの方ではやってないんですかというお問い合わせの電話もあったんです。そのことに関しては僕らとしては、そのマルシェの主催者ではないのでお答えができなくて、それは誰に言ったらいいんですかってなってもお答えができないんですよ、僕らとしても。

だからその銀座街商店街でっていう話になるんですけど、今ずっと僕らも金剛バルと一緒にこの商店街でイベントやってたんですね。最初は、移動動物園やったり、子どもさん向けのイベントやってたんですけど、商店街として。今コロナで2年それは中止にしてるんですけど。今年は一応開催予定にはしてるんですけど、ただもう今おっしゃったようにコロナがもう凄いいことになってる

ので、来月のことすら分からない状態なので、それを11月の予定で、今やりますってなかなかちょっと進めることも難しいですけど。やれる方法を考えながらずっと検討はしてるんですけど、もちろん商店街ではできるんですけど、この責任の所在っていうのがきちっとしたものがなされてない部分でずっと開催されてるので、ここも1回ちゃんと整理した方がいいんじゃないかと思うんですけど、ここに書いてあるとおりでと思うんですよ。

もう、まず何か起こったときの責任の所在であったり、あと会計ですよ。会計を管理する方がきちっと必要だと思いますし、そういったことをURさんはね、場所は提供してくださってますけど、何か事故起こったときとかっていうのは、やっぱり商店街の名前も出ますから、やはり何かこうきちっとした、先ほどのまちづくり会議ではないですけど、一つの何かその部会みたいなものがあった方がいいのかなというふうには思いますね。

(増田会長)

そうですね。

(木全委員)

商店街で主体でやるのであればやるでいいんですけども、やはりちょっとその辺の窓口もきちっと役員とか決めてやらないと、ちょっと難しいんじゃないかな。今何かふわっとした感じで行われてるので、だからちょっと、非常にこのコロナ禍でよくやれてるなというのが、正直僕の思いですけど。

(増田会長)

だから、できたら本当はまちづくり会議の中にマルシェ部会があって、そこがある一定連絡窓口とか責任体制みたいなやつが、そこで担保されてると。それに対して市がひょっとしたら、例えば共催という形で市が位置付くのか、何かそういうふうな仕組みをきっちりと検討して固めといった方がいいでしょうね。

(木全委員)

結構規模が大きくなってきてるので、マルシェさんも。やはり今この段階でちょっと考えていった方がいいんじゃないかなあと思うんですよ。

(増田会長)

そうですね、ご指摘の通りだと思いますね。そうでないと市も自分らがやってると言わずに、本当にどこがやっているのかという話になるので、どこがちゃんと保険だとか、衛生上の話しだとか、どういうふうに担保してるのかとか、火気の取り扱いどうしてるのかとか、なんかそういうことも全部含めて一度整理を、坂口さんしましょうかね。

(中井副会長)

会長いいでしょうか。



(増田会長)

はい。

(中井副会長)

もともとまちづくり会議の中にイベント部会っていうのがあったんですね。それが商店街の木全さんなんかを担当してはったとこなんですけど。それとは別にこのマルシェがあったもんですから、マルシェとイベント部会がうまくこう連動してない状態で今現在なってまして、逆にまちづくり会議のイベント部会の方が何もしてない、何もしてないといえば語弊がありますが、活動としては下火になって、マルシェの方が何かイベント部会と関係なく、しかも商店街ともあんまり関係なく、こう拡大してきたっていうのが現在の状況だと思うので、一度整理は要るんじゃないかというふうに思います。

(増田会長)

そうですね、ありがとうございます。一度再整理しましょう。そうしないと、何かやっぱり利用者の方々にも不安が起こるでしょうし、或いは何か事が発生したときにどういう責任体制で展開してるのかとか、どういう形で担保しながら展開してるのかっていうことがある。後から後ろ指さされないように少し整理をしましょう。

(事務局：坂口)

はい、すいませんありがとうございます。幸いプレーヤーとなる方が今たくさん出て来ていただいておりますので、丁寧に声掛けしながら、何とか体制の方、整えていきたいなと思ってます。

(増田会長)

これ非常にいい動きだし、できたら私なんかもっと回数頻度が、買い物で対応しようと思うと1週間に1回ぐらいは開いてると本当の意味の買い物対象になっていくと、日常生活をサポートする。だからそういうところまで発展する可能性もあるので、是非ともその辺は整理しておきましょう。

はい、ありがとうございました。まだまだ議題がたくさんあるので、ちょっと前に進めさせていただきたいと思います。

市が進めている取組についてというもので、3つほどありますけれどもこれも簡潔にご報告いただけますかね。

(事務局：坂口、加茂) (株式会社ダン計画研究所：上岡)

・資料2③について説明。

(増田会長)

はい、今市が取り組まれてる内容についてご報告いただきましたけど、何かご質問とかご意見ございますか。前回も言いましたけれども市が取り組まれてる内容と、まちづくり会議が目指してるものと、具体的にどう関連づけていくのかという辺りを、ここの資料には全くないですけど。どう

いうふうにお考えになってるんですか、まちづくり会議が目指してるものとだぶってる部分があると思うんですけれども。それを具体的にどういうふうにしてこのまちづくり会議と会議というかまちづくりとつなげていくのかというのはその辺、市はいかがでしょうかね。

(事務局：坂口)

はい、すいません。確かに後半の③の説明のところ、市が独自で手を掛けて進めている取組っていうのが、特に今年度以降そういったものが起こってきて、ご指摘受けてるところなんですけども、何とかこれ、案件の(1)で言いますと①の各プロジェクトの取組とつなげていきたいということで試行錯誤してる場所ですので、今ちょっと他での報告もあったんですけど、それぞれの取組がバラバラとしてる中で、どのように横軸でつなげていけるのかっていうのは、まだ一番最適な方法ってのは見つかってないんですけど、また皆さんにアドバイスをいただきながら、情報共有しながら進めていければなというふうに考えております。

(増田会長)

例えば最初の案件だと、若い学生がまちづくり会議なんかに参加するとか、或いは、∞KON ROOMについては、まちづくり会議メンバーに入ってもらおうとか、オブザーバーではなくて。或いは最後の、このスマートシティは年限が、時限がかなり短期集中型なので、それも短期集中の中でどういう連携のあり方みたいなやつを探っていくのかとか、そういうのは是非とも考えていただきたいと思うんですけどね。何かやることが、四方八方拡散していくのではなくて、やはりある意味ちゃんと関連性を、或いは連携なり関連性を持って、金剛地区全体の再生へつなげていくみたいな、そんなことを是非とも意識して展開していただければなと思うんですけどね。

(事務局：坂口)

はい、今後事業を進めていく中では、そこをしっかりと意識して進めていきたいなと思っておりますのでまた皆様よろしくお願いたします。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。

それでは次の議題で、前回基本構想で、1章から3章の頭ぐらいまでご報告いただいたんですけども、今回、中身として基本構想と、基本構想の実現に向けてというところが立案されたということですので、ご報告よろしくお願したいと思います。

(2) 金剛地区施設等再整備基本構想について

(事務局：松本)

・資料3について説明。

(増田会長)

はい、ありがとうございました。この辺り先ほど少し友田さんね、その再生まちづくり推進協議

会が目指してるようなところとかなりの部分がだぶってて、例えばこの34ページの中の多様なステークホルダーとの連携とか、或いは有効な事業手法の検討みたいなやつとうまく関係付けながら展開できれば、ここに書いてある官民連携というか、すべてのステークホルダーが参画したような形での協議会方式による事業展開みたいなやつが考えられると思うんですけどね。

その辺、友田さんご意見ございますかね。

(友田委員)

我々もね、こういったところを目指してつくるんですが、ここで一つ欠けてるのが基本構想のコンセプトのところ、地域住民主体とか、マルチパートナーシップというのを書いているんですよ。ステークホルダーといえは利害関係者っていう意味で、どちらかというパートナーであったり仲間であったり、そういう主体の連携みたいなところをもう少し加えていただいて、そしてそういったところのチームをきちっと作りましょう、そういった趣旨ですね。その辺はつくっていききたいなというふうに思っていて、当然こことも関連づけていくという形になろうかと思えます。

(増田会長)

そうですね。はい、ありがとうございます。あと、小野先生いかがでしょう。

(小野委員)

はい、ありがとうございます。一つの方向性が示されましたので本当に、あと中身を進めていくんでしょうけど、私としてはやっぱりこれからの本当に10年後って当面目指してるんですけども、どんな社会になっていくかっていうことで、やっぱり多様性とかね、本当にすべての人が暮らしやすいってのはおそらくベースになって、その上でそういうにぎわいをどうするかみたいなところもあるので、両方とも視点が常に必要なのかなっていうのはちょっと思っていて、若者子育て世代、本当に来てほしいしその通りですし、高齢者はその通りなんですけど、もっと多様な人たちが地域にはやっぱり暮らしているんで、そういう地域に暮らしている多様性そういう辺りをもう少しこう広げてもいいのかなっていうのはちょっと思ったっていうところです。移動の問題とか含めてですね。

で、ウォーカーブルだいぶ出てますけど、ウォーカーブルも自分で本当に動ける人と自分だけでは動けない人も含めてのウォーカーブルなんだぐらいのそういう積極的な意味合いで使っていくんだっていうのをあえてなんか言いながら、ゆったり楽しめる空間で色々な人たちがにぎわいがある場所をつくっていかうと、そういうメッセージがもっともっと出てもいいのかなっていう、ポジティブな感じだと思います。

(増田会長)

はい、わかりました。ありがとうございます。あと少し事業者さんいかがでしょうか。南海さん何かコメントございますかね、いかがでしょう。

(大塚委員)

はい、ありがとうございます南海の大塚です。先ほどご説明の中で富田林市様から、パートナーとして私どもでありますとか、URさんのお名前挙げていただいたんですけども。ぜひ一緒ににぎわいづくりでありますとかに取り組んでいきたいなと思っておりまして、また次年度以降、今富田林市さんとも話し始めてるんですけども、具体的な形に見えるものを何か仕掛けていきたいなと、話し始めてますので、またその辺りで地域住民の方々ですとかとお話させていただきながら、実際に仕掛けをつくっていききたいなと今思っております。ぜひよろしく願いいたします。

(増田会長)

ありがとうございます。木全さんいかがでしょう、銀座商店街の名前が挙がってますけれども。

(木全委員)

そうですね。今おっしゃったように色々なね、全部見ると中央公園もそうですしうちの商店街も、金剛駅周辺、寺池公園もすべてがこう繋がってますので、すべて連携してね、うまいことまちづくりができれば。今おっしゃった、多様性を認める世の中ですから本当に色々な方が、すべての人が豊かに楽しく暮らせるようなまちづくり、こういったことを目指してできれば一番いいのかなあというのと。

あとちょっと細かい話になるんですけど店舗会としては今空き店舗がありますので、耐震問題って書いておられますけど、やっぱりシャッター通りっていうのが一番の問題でもありますので、耐震というか貸せる状態にURさんも努力していただいて、ピュア金剛ですね旧公設市場跡ではなく、今現在店舗がある部分に関しては、できれば店舗募集をね、今募集すらしていない状態ですので、URさん。ですので募集ができる状態にしていただいて店舗を埋めるような努力もしていただけたらなというのはあります。ちょっとした個々の問題であるんですけども。

(増田会長)

なるほど、わかりました、ありがとうございます。URの馬來さんいかがでしょう。

(馬來委員)

はい、今回基本構想のお話もございましたので、我々も当然基本構想を踏まえて、皆様と連携しながら、金剛銀座街商店街、そして周辺地区の活性化に向けて一緒にやらせていただきたいと思っております。

あと、空店舗の話につきましてはですね、私の方でなかなかすぐお答えできるところではないですが、銀座街商店街、このピュア金剛の跡地も含めて、今後の活用について検討を進めていきたいと思っておりますのでぜひよろしく願いいたします。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。府の三崎さんいかがでしょうかね、構想そのものとか展開の方で。

(三崎委員)

はい、三崎です。どうもお疲れ様でございます。一番の話、全体を通して気になりましたのは、やはりこのまちづくり会議とやっぱり市の役割っていうんですか、あとスマートシティとかその連携ですよね。最後に報告があった施設の整備再編。市が中心になってやるのか、地元の方とパートナーでやるのかですね。誰がどういう役割分担で、どういうことを実現していくかっていうのを、どちらかという市の方が、指針に基づいて、どの方向に向かっているかっていうのをちゃんと現状把握ですね、せっかくこの推進会議っていうのが多分進捗管理の一番ベースになるところだと思いますので、その辺を全体の見取り図っていうんですか。何かそんなんがあると皆さんの共有化ができるかと思いました。以上です。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。多分この34ページに書いてある有効な事業手法の検討。ここでPPPにしてもPFIにしても、地元との連携抜きにPPPとかPFIができないというのはこの頃よく言われてて、何らかの要するにPPPやるときも、地元のプレーヤー等の、要するに基本的なコミュニケーションなり連携みたいなやつがちゃんと意図されたような形でないと、単なる民間の活力という意味ではないというのが、このPPPとかPFIになってきてますので、その辺はぜひとも市の方でも考えていただければと。

それと同時にこの3番の多様なステークホルダーとの連携ですけど、各々三崎さんがおっしゃっていただいたように、どんな役割を果たすのかみたいな、その辺りもきっちり、もう一段この構想の次の段階として、もう一段詰めないといけない部分が残されてるんだろうと思うんですけども、よろしくお願ひしたいと思います。

大分まちづくり会議なんかでもヒアリングをいただいて、ある程度皆さん方の意見も組み入れていただきながら、この構想ができてるように思ってるんですけども、何かこれに関して補足的な意見とか質問ございますでしょうか、いかがでしょう。

はい、吉村委員どうぞ。

(吉村委員)

はい、すいません。基本的な構想のところ、一番最初に子育て、若者支援ですかね。これが一番になってるんですけども。これは確かに再生の鍵になってると思ってるんです。ところが導入機能のところ見ますと、子育て支援機能うかな。これが入っているのが中央公園だけということになっていますので、そういう点では非常に弱いと僕は思っております。

かねてから言ってますけれども、中央公園はスポーツ的なイメージ、それから、もう一ついるのが文化的なイメージですね。文化とそれから子育てという点では僕は保育的な施設とか、子どもの成長を見守っていけるような施設は絶対いるなと思ってまして、そういう意味での文化的、子育て的な機能が、実はもう一步要るだろうと。

ということで、個人的に考えれば、久野喜台1号公園ですかね、あそこはこれ見てたら、生活利便性ということ言ってるんですけども、駅前という点からいけば、僕はむしろ子育て的な機能をあそこに入れる方がいいんじゃないかなとも思っております。

あそこは富田林市の所有になっておりますので、様々な調整とか権利関係の調整とかね、具体化する時にはやりやすいんじゃないかと。そこが僕一つポイントになるんじゃないかなと思ってます。

もしそれでなければ、URのピュア金剛の跡地ですかね。あそこも利便性プラスそういう子育て的なイメージを持てるんじゃないかなとも思ってますのでね。

人を集めるという点ではやっぱり子育て的な機能をもっと入れなければ、僕はおそらくうまくいかないんじゃないかなという、そう思っていますので、先ほど∞KON ROOM ですかね、子どもたちの学習施設として非常に子どもが来たという話がありましたのでね、ああいう学生が来れる施設、あれはもうやっぱり目玉になってくると思ってるんでね、これはもうぜひ基本構想の中に導入機能をどうするかというところではぜひ入れていただきたいなというふうに思っております。

(増田会長)

ありがとうございます。

多分、文化施設と呼んでもいいと思うし、図書館みたいな話がそういう機能を持ってて、子どもの居場所づくりみたいな形ですよ。

(吉村委員)

そうですね。

(増田会長)

∞KON ROOMはその機能を一つ果たしたり、或いはわっく Café で、子ども食堂をしていただいたりとかいう、ある意味子どもの硬い学習施設ではなくてサードプレイスの居場所づくり的なものも非常に重要になってくるんだらうと思いますね。吉村さんのご指摘ですね。

(吉村委員)

そうですね。ちょうど僕の息子のところに孫が生まれてましてね。やっぱり何を望んでるかという、絵本を見せたり、子どもを連れて行ってそういうものに触れさせるっていう場所をすごく求めてることがよくわかりますので、それは目玉になるんじゃないかと非常に思っていますので。

(増田会長)

そうですね。その辺なんかはむしろ中央公園もそうでしょうけど、駅前なんかはひょっとしたら子育て支援にとっては非常に有効な場所かもしれないですよ。

(吉村委員)

そうですね、そういうふうに考えております。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。大体よろしいでしょうか。はい、溝口委員どうぞ。

(溝口委員)

はい、もう時間がありませんので1点だけ。南海電鉄の大塚さんにちょっとお聞きしたいのと、また提案なんですが、駅前の再整備に関してですね、パブリックコメントでもちょっと言及したのですが、白鷺駅の東側のロータリー、これは行ってない方はちょっとわからないと思いますが、非常にシンプルな、或いは近代的な形の駅前ロータリーになってると。こういう形にスペース的には白鷺駅の東側と、金剛駅の富田林市側とスペース的には同じようなスペースなのかなと思うんですが、そういうことを今回のこのまちづくりの全体の中での一つの駅前の構想について考えられないかどうか。パブリックコメントにも出しておいたのですが、ちょっとコメントいただければなと思います。

(増田会長)

はい、いかがでしょうか。大塚委員どうぞ。

(大塚委員)

はい、ありがとうございます。私も詳しいことは存じ上げていないんですけども、白鷺の場合は、弊社といいますか裏のマンションも含めた部分の再開発的な動きの中で整備されたんだと認識しております。金剛につきましては、我々もハードを含めたものを考えていきたいと思っておるんですけども、それにつきましては当面、来年、再来年という近々の話ではなくて、もうちょっと中期的といいますか、その視野で計画検討を始めたいなと思っております。

あと1点これ重要なことなんですけども、富田林市さんもお認識と思うんですけども、金剛駅の東側につきましては、駅前の広場一帯が大阪狭山市様の市域になっております。富田林市様ではございませんでして、その辺りの複雑な事情もございますので、その辺りはお隣の大阪狭山市様と、富田林市様と歩調を合わせながら、あるべき駅前の姿っていうのを考えていきたいと思っております。ですので、ちょっと近々のお話ではなかなか調整等もございますので、難しいのかなとは思っております。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。

(溝口委員)

ありがとうございました。

(増田会長)

はい、色々な意見、出ましたので塚本さんある意味、パブリックコメントも踏まえて少し補強できるようなところに関しては、補強いただいて構想をおまとめいただければと思います。

よろしくお願ひしたいと思います。

(事務局：塚本)

わかりました、本日いただいたご意見であつたりとか、この間募集しておりますパブリックコメントのご意見を踏まえましてですね、最終的な整理をしていきたいと思っておりますのでよろしくをお願いします。

(3) その他

(増田会長)

はい、ありがとうございます。一応1、2の案件が終わりまして、その他ということで、社会福祉協議会の高橋様からと、けあばるさんから少し情報提供があるということで、よろしくお願ひしたいと思います。まず、高橋さんでしょうかね。

(高橋委員)

はい、よろしくお願ひします。富田林市社会福祉協議会の高橋です、いつもありがとうございます。今のお話ずっと今日も会議聞かせていただいて、今までも参加させていただいて、社協といたしましても、この金剛地区活性化に向けて何か少しでもできないかっていうところを思案して参りました。昨年の10月より検討委員会を立ち上げて参りまして、この度けあばる金剛跡地を活用した、∞KON ROOMさんのすぐ横の横ぐらいいすけども。虹色サロン金剛というものの開設を検討してることを今日は報告させていただきたいと思ひます。ざっとですけども、画面見ていただきましたらコンセプトとしては、世代分野を問わず誰でも集まれる繋がり場、集いの場としてお参りまして、地域に住む様々な人が集まり、交流する場であつたり、地域活動者の活動場、披露の場として考えてお参りします。気軽に立ち寄れる、常設のサロンであつたりとか、その下に書いていますが、テーマ別サロン、時には認知症サロンであつたり子育てサロンであつたり、テーマ別サロンを開設していこうかと思ひてお参りします。

次進んでいただきましたら、これまだ今検討段階ではありますけども、運営場所としてはさっき言ったけあばる金剛跡地ですね、運営時間、定員等こんなもんですけども考えてお参りします。すぐ横にある∞KON ROOMさんであるとか、銀座商店街にあるわっくCaféさんだつたりとか、先ほどから集いの場として、お話も挙がってましたけど、一緒にですね、活性化の一翼を担えればと思ひて考えてお参りします。

一応開始は、令和4年の6月、今年の6月ぐらいからを目指して、議論を今進めてる段階ではありますが、ご周知いただければと思ひまして今日はお話させていただきました。また以降進捗のご報告、もしさせていただく機会がありましたら、その時もどうぞよろしくお願ひします。

以上となります、ありがとうございます。

(増田会長)

ありがとうございます。そしたら、けあばるさんお願ひできますか。



(事務局：坂口)

すいません事務局坂口ですが、けあばるの佐々木委員、今日ちょっと都合で欠席ということですので、概要だけなんですけども、第3圏域包括支援センターさんの方ですね、居場所づくり、地域づくり活動されてるんですけども。先ほど色々な取組と連携をとるという部分で、URさんの集会所の側でキッチンカーが出てるので、そこで何か一緒できないかなってことを考えていただいております。3月のキッチンカー出店の時にですね、お困りごと相談カフェ的な居場所づくりサロンのことをやっていただけるということで、そのような報告をいただけると聞いてたんですけども、キッチンカーの出店に合わせて、横にある集会所で、地域の方が集まる場っていうのをつくって、一緒にキッチンカーでランチをして、というような取組を連携して、考えていければということの報告をいただく予定でございました。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。

(事務局：坂口)

3月にそれが起こると思いますので、また内容については後日に共有できればと思っておりますので、よろしく願いいたします。

(増田会長)

はいわかりました、ありがとうございます。小野先生いかがでしょうかね、多様性の重要性みたいな話、先ほどもいただきましたけど。

(小野委員)

はい、ありがとうございます。今国としてもそういう居場所づくりはすごい進めようとしていて、やっぱり皆さんがなかなかこう引きこもる時代ですので、コロナだからしょうがないって面もあるんですけど、このままこれが続いてしまうと、本当に色々な意味で大きな影響になるんで、先ほどの場づくりってのは一つキーワードになるんですけど、ぜひこういう金剛なんかのもうモデル的にやる場合には、こういうものが場なんだっていうふうに見せつけるような質を上げて、ぜひ絶対行ってみたいっていうような場所をみんなでぜひつくっていったらいいなというのを改めて思いました。

そういう住民の人たちもぜひ呼びかけて一緒につくりましょうってメッセージがすごく大切だなというふうに思いました。

(増田会長)

そうですね、場を形成してそれを維持していったりそれを活性化させていくっていうのは非常に重要で、今までみたいな、地縁型、テーマ型にプラスやはりこういうサードプレイスのなところでのコミュニティーというのか、繋がりというのが非常に重要になってきてますので、ぜひともうまく連携しながら展開していただければなと思いますね。

ありがとうございます。一応今日予定しておりました案件に関しましては、大体意見交換ができたかと思えますけれども、その他のところはちょっと後に置いておいて、委員の皆さんで何かこの際発言あるかどうかお聞きしたいんですけどいかがでしょうか。大体よろしいでしょうか。

はい、中井委員どうぞ。

(中井委員)

先ほど社協さんの話もあったんですが、居場所づくりということで、実は私どもわっく Café でも金剛中学校に出前講座って言いますかね、そういうものをさせていただいてこんな活動をしてるんだよというような話をさせていただいたことがありまして、それを受けて、中学生の子が何か参加できないかなっていう問い合わせがあるような状況で、私どもが一番弱いのが小学校、中学校という、つまり現在の子どもですね。何とか呼びたいんです。そういうことをやろうとしてるんですが非常に難しい状況にあります。

というのは、先ほど社協さん3時で終わられるってことなんですよね。3時ってことは学校がまだやってる間で、要は5時とか4時半とか、その辺からしか子どもたちは来れないので、ちょっとその辺をもう少し居場所をつくる時に考えていただいたらどうかなと考えました。

(増田会長)

あと金剛の中にはフリースクールみたいなことをされてる方いらっしゃるんですかね。いないんですかね、どうでしょう。

(事務局：坂口)

金剛の中では、すみません。寺田さんとかなんかそんな情報ご存知だったりしますか。

(特定非営利活動法人きんきうえぶ：寺田)

金剛地区でいうとあまり聞かないです、廣崎さんとかどうですか。

(廣崎委員)

多分金剛エリアはなくて、知っているのが、ラシーナさんがフリースクール的なのをやっているんです、多分甲田の方になるんで。

(特定非営利活動法人きんきうえぶ：寺田)

そうです、川西駅の近くですね。

(廣崎委員)

あと、大伴かあっちの方で、名前忘れましたが、なんかそんなのもやってたりするんですけど、金剛エリアではないなっていうので。せっかくご指名いただいたのでちょっと発言いいですか。

(増田会長)

はいどうぞ。

(廣崎委員)

子育て支援機能っていうのが、ちょっと私にはわからないんですけども、乳幼児に対しての子育て支援というのはそこそこ金剛で私たちも活動をしているように、保育園もそれなりにあると思うんですけども、先ほど中井委員がおっしゃったように、小学校、中学校、高校、そこへの支援というのはすごく抜けているなあと思っていて、場を設けるだけではやはりそこは充実しないっていうのもある一方で、かがりの里、コミュニティセンターとして機能しているかがりの里なんかでは、私たちも広場やっているんですけども、小学生が学校終わったら遊びに来るとか、夏休みに「とりあえずかがりに集合な」みたいなので、集まっている姿も見れるので、放課後の子どもたちが自由に行き来できる場所っていうのは今後必要になるのかなと思うので、子育て支援機能っていうのを、金剛エリアで弱い部分で言えば、小・中・高校生、∞KON ROOM さんが学習。

(増田会長)

特にね、泉北ニュータウンなんかで見るとやっぱり不登校生っていうのは、見逃せないぐらいの、結構人数いらっしゃるんですよ。だからその辺りについても、何らかの意味のケアシステムが、金剛の中にもいるんだろうと思うんですけどね。

放課後とともに、もともと不登校でというので、そういうのがフリースクールの一つなんですよけど。

(廣崎委員)

なので日中にわっく Café にちょっとお手伝いに来てくれるとか。そういう役割があるとサードプレイスになるのかなと思うんですけども。

(増田会長)

そうですね。ありがとうございます。

小野先生何かその点コメントございますかね。

(小野委員)

さっきね、これから例えば公園整備するときに、事前にみんなで作っていかうっていう話ありましたよね。

(増田会長)

はいはい。

(小野委員)

ああいうところで一緒にやっていくっていうことなんか含めて、本当に機会を提供していくとか

広げていくってということで、ぜひぜひ言っていただければいいと思いますし、今基本的に社会福祉施設なんかは地域貢献というのをすごく頭の中にありますから、ぜひ呼びかけていただいて、参加して行って、そういう中で多様性が生まれてくるんだろうなというのを感じています。

### 3. その他

(増田会長)

なるほど、わかりました。ありがとうございます。

はい、大体中身そのものについての議論はよろしいでしょうか。あと少し坂口さんの方から事務的な手続きで少し時間があるということなんですけど、ちょっと私申し訳ないんですけど、次の会議の座長を持って、それが4時からズームの会議がスタートしますので、申し訳ないですけど、ちょっと一歩先にここで退出させてもらおうと思います。あとは事務的な手続きですよ。

(事務局：坂口)

はい、あとこちら事務局の方で最後、進行の方させていただきます。今日はありがとうございました。

(増田会長)

すいません、皆さん少しお先に申し訳ないですけど退出させてもらいます。どうも今日はありがとうございました。失礼します。

(事務局：坂口)

それでは事務局の方から最後、その他の案件ということで、今年度この協議会の開催は本日で最後になります。この協議会は、来年度も引き続き開催させていただきたいと思っておりますので皆様ご協力の方、よろしくお願いいたします。

来年度はですね、これから市議会の方で予算審議の方もあるんですけども、今日報告させていただきました基本構想の素案、策定そちらの方を踏まえまして、まず中央公園、全体の再整備の基本計画的なものを策定したいというふうに考えております。策定に際しましては、この協議会においても、委員の皆様から様々なご意見をいただきたいと考えておりまして、来年度、回数を若干増やして開催させていただきたいと思っております。具体的には、4回程度ぐらいになるかなというふうに予想しております。

なお、現委員の皆様、任期の方は6月1日までとなっております、来年度委員改選の方が必要となっておりますが、委員改選につきましては、4月以降に個別に手続きの方について連絡させていただきますのでよろしくお願いいたします。

団体・事業者の方から選出いただいた委員の皆様につきましては、各所属の方へ推薦依頼の方をさせていただきますが、今後人事異動等もあるかと思っておりますが、また、所属の方で調整の方よろしくお願ひしたいと思ひます。以上でございます。

それでは、定刻となりましたので、後特に皆様ご意見共有事項等なければ、協議会の方以上で終

了させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

本日は長時間にわたり、ありがとうございました。以上で終了させていただきます。ありがとうございました。

以上